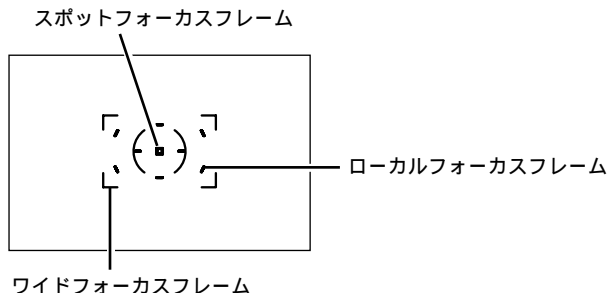
応用撮影編

ピントと露出を理解してフォーカスモードや露出モードを変更する撮影方法を説明しています。より創造的で高度な表現をお楽しみください。

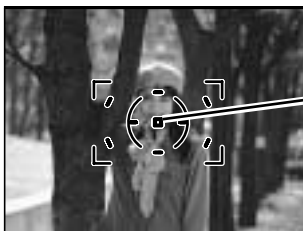
ピント位置(フォーカスフレーム)を確認する

このカメラでは、ピントを合わせる範囲が広いワイドフォーカスフレームを採用しています。

ワイドフォーカスフレーム内には9つのセンサー(スポットフォーカスフレームと8個のローカルフォーカスフレーム)があります。
被写体の位置に応じて、9つのセンサーのうちの最適なポイントが働き、ピントを合わせます。

シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った部分のローカルフォーカスフレームが一瞬赤く点灯します。
電子音設定がONのときは、音でピントが合ったことをお知らせします。

■ ピントが合ったときセンサー(スポットフォーカスフレームまたはローカルフォーカスフレーム)が一瞬赤く点灯しますが、その時間を変えることができます（P.112参照)。
■ AFエリアがワイドAF、AFモードがAF-A、AF-C、またはシーンセレクターでスポーツモードを選択しているときに、ピントが合ったフォーカスフレームが点灯します。被写体の位置が動くと、自動的に再度ピント合わせを行ない、ピントが合った部分のローカルフォーカスフレームが一瞬赤く点灯(0.3秒)します。

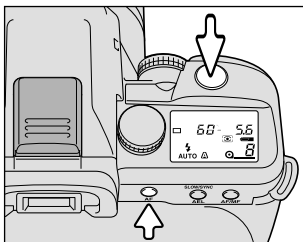
ねらいの部分(スポットフォーカスフレーム) にピントを合わせる

通常はワイドフォーカスフレームでピントを合わせます。より厳密にピントを合わせる位置を決めたいときは、画面中心部のスポットフォーカスフレームでピントを合わせます。

1.ピントを合わせたいものにスポットフォーカスフレーム □ を合わせます。

● ▯0▯ AF

スポットAFロックボタンを押したときのファインダー内表示

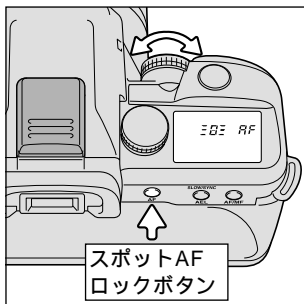
2.スポットAFロックボタンを押します。

- スポットフォーカスフレームの位置にあるものにピントが固定され、スポットフォーカスフレームが一瞬赤く点灯します。そのまま構図を変えてもピント位置は変わりません。

3.スポットAFロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

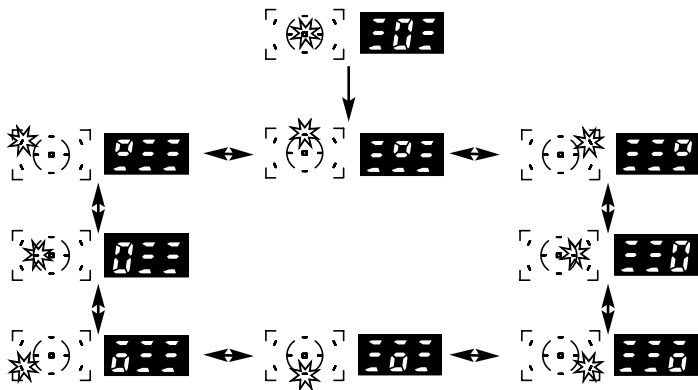
- スポットAFロックボタンから指を離すと、通常のフォーカスエリアに戻ります。

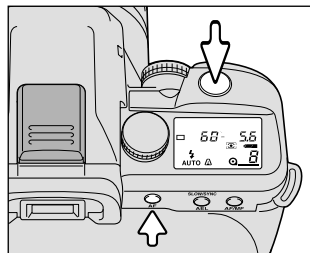
ローカルフォーカスフレームを選択する

カメラを三脚などに固定して構図を変更しにくいときに、被写体の特定部分により厳密にピント合わせを行いたいときは、ローカルフォーカスフレームを選択することができます。

一時的にローカルフォーカスフレームを選択する

1. **スポットAFロックボタンを押します。**

2. **スポットAFロックボタンを押したまま、ダイヤルを回して希望するローカルフォーカスフレームを選択します。**

- ダイヤルを回すと、選択されたローカルフォーカスフレームが一瞬赤く点灯して、選択したフレームをお知らせします。

3. スポットAFロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● スポットAFロックボタンから指を離すとワイドフォーカスフレームに戻ります。

■ スポットAFロックボタンを押し続けると、同じピント位置で連続して撮影できます。

■ シャッターボタンを押して、内蔵フラッシュが自動的に上がった場合、ピント位置が変わる場合があります。フラッシュが上がった状態で再度スポットAFロックボタンを押し続けてください。

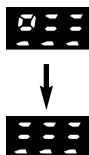
ピント位置(フォーカスフレーム)を確認する (続き)

スポットAFロックボタン押し続けずにローカルフォーカスフレーム選択をする

カスタム設定をすると、スポットAFロックボタンを押し続けなくてもローカルフォーカスフレーム選択ができます。

1.カスタム設定8-2に設定します。(設定方法は、P.109参照)

2.スポットAFロックボタンを押したまま、ダイヤルを回して希望するローカルフォーカスフレームを選択します。
- スポットAFロックボタンから指を離しても、選択したローカルフォーカスフレームは維持されます。

3.シャッターボタンを押し込んで撮影します。
- 撮影後も選択されたローカルフォーカスフレームは維持されます。

- ワイドフォーカスフレームに戻す場合は、スポットAFロックボタンを押しながらダイヤルを回し、左図の位置のローカルフォーカスフレームから、さらにダイヤルを１クリック右に回してください。

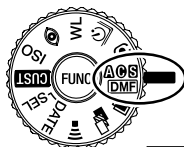
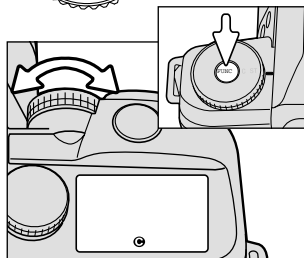
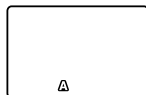
■ 被写体が動いているとき(ファインダー表示 (◉) が点灯しているとき)も、ピントを固定することができます。

■ AFレフレックス500mmF8およびAFパワーズーム35-80mmF4-5.6を使用しているときは、中央のスポットフォーカスフレームしか選択できません。

■ スポットAFロックボタンを押すと、ピントと同時に露出(絞り値とシャッター速度)も固定されます。スポットAFロックボタンを押している間は、9つのセンサーのうち、1つのセンサーだけが働きます。

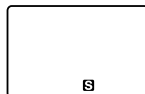
ピントを自動で合わせる(AFモードの切り替え)

このカメラには、4種類のAF(オートフォーカス)モードがあり、撮影者の意図や使い方に応じて切り替えることができます。

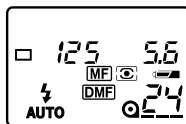
1. **ファンクションダイヤルをAFモード ACS DMF の位置まで回します。**

2. **ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、AFモードを選択します。**

AF制御自動切り替え Ⓐ

あらゆる被写体に対して有効です。
被写体の動きに応じて、コンティニュアスAFとワンショットAFとが自動的に切り替わります。
被写体が動いているときは、シャッターボタンを半押ししている間ピントを合わせ続けます。被写体が静止しているときは、シャッターボタン半押しで一度だけピントを合わせ、そこでピント位置を固定(フォーカスロック)します。

コンティニュアスAF Ⓒ

動く被写体を撮影するのに便利です。
シャッターボタンを半押ししている間ピントを合わせ続けます。

ワンショットAF S

静止している被写体を撮影するのに適しています。シャッターボタン半押しで一度だけピントを合わせ、そこで固定(フォーカスロック)します。

ＤＭＦ(ダイレクトマニュアルフォーカスモード) DMF

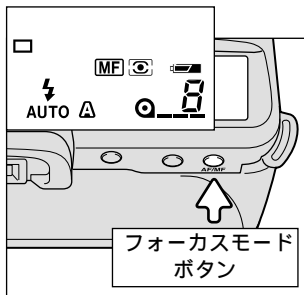
オートフォーカスモードでピントが合った後に、フォーカスリングを回してピントの微調整を行なうことができます。（ＳＳＭレンズ以外のＤレンズを装着している時にのみ、この機能をお使いいただけます。ＳＳＭレンズでは、レンズ側のＤＭＦをお使いいただけます。）

● ＤＭＦモードに設定し、シャッターボタン半押しでピントを合わせると、ボディ表示部とファインダー内に MF が表示されます。表示が出ましたら、フォーカスリングを回してピントの微調整を行なってください。

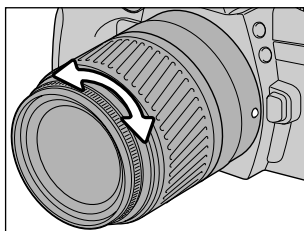
※DMFとは、Direct Manual Focusの略です。

■ 撮影シーンセレクター選択時は、AFモードの選択はできません。スポーツモードでは、コンティニュアスAF、その他のモードではAF制御自動切り替えになります。

■ DMF設定時に、Dレンズ以外のレンズを装着すると、自動的にAF制御自動切り替えになります。Dレンズを装着すれば、DMFモードに戻ります。Dレンズ以外のレンズを装着した時にAFモードを変更した場合は、その設定が保持されます。

手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)

オートフォーカスを使わずに、マニュアル(手動)で自由にピントを合わせることができます。

1. フォーカスモードボタンを押します。

- マニュアルフォーカス時には、ボディ表示部に MF と表示されます。
- 押す度に、オートフォーカスとマニュアルフォーカスが切り替わります。

2. レンズのフォーカスリングを回し、被写体にピントを合わせます。

応用撮影編

■ 視度が合っている（ファインダー内のワイドフォーカスフレームがはっきり見えている状態）ことを確認してからマニュアルフォーカスでピントを合わせてください。（P.23参照）

■ ピントが合うと、ファインダー内のフォーカス表示 ● が点灯します。

■ このカメラの測光方式(14分割ハニカムパターン測光)はオートフォーカスと連動しているため、マニュアルフォーカスにすると、同じ場面でも測光値が異なることがあります。（Dレンズ以外を使用している場合）

露出について

露出とは

カメラは、レンズから通ってきた光を一定時間フィルムに当て、露光する仕組みになっています。フィルム面に当たる光の量を「露出」といい、光の量を調節するのが「絞り」と「シャッター」です。
絞りは、レンズを通る光の量を調節します。シャッターは、フィルムに光を当てる時間を調節します。
絞りを開く(絞り値を小さくする)と光の量は多く、絞る(絞り値を大きくする)と少なくなります。
シャッター速度が速くなると光の当たる時間が短くなり、光の量が少なくなります。シャッター速度が遅くなると光の当たる時間が長くなり、光の量が多くなります。
適切な光の量を「適正露出」といいます。光の量が足りないときは、露出がアンダーとなり、写真の仕上りが暗くなります。光の量が多すぎるときは、露出オーバーとなり、写真が白っぽくなります。

シャッター速度：1/1000秒
絞り値：2.8

シャッター速度：1/60秒
絞り値：11

上のふたつの写真は、適切な光がフィルムに当たって撮影された「適正露出」の写真です。左の写真はシャッター速度が速く、絞りを開いて撮影しています。右の写真は絞り込んで撮影している分だけ、シャッター速度が遅くなっています。
どちらも「適正露出」で撮影した写真ですが、撮影者がシャッター速度や絞りを調節することで、さまざまな描写を表現することができます。

絞りの効果

左下の写真は、絞りを開けて(F3.5、4など)撮影しています。ピントが被写体のみに合っていて背景はボケており、人物がくっきり浮き出た描写になっています(ポートレート撮影に最適)。
右下の写真は、絞りを絞って(F16、22など)撮影しています。被写体だけではなくその前後の広い範囲にピントの合った描写となっています(大勢の人で撮影する記念撮影などに最適)。

絞りを開けたとき

絞りを絞り込んだとき

このように絞りは撮影目的に合わせて、ピントの合う範囲を調整します。

シャッター速度の効果

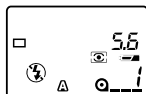
左下の写真は、速いシャッター速度(1/500秒、1/1000秒など)で撮影しています。滝の水しぶきが止まって見え、その様子がよく分かります。
右下の写真は、遅いシャッター速度1/15秒、1/30秒)で撮影しています。水の流れがよく表現されています。

シャッター速度が速いとき

シャッター速度が遅いとき

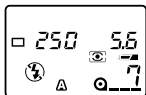
このように動いているものの描写は、カメラのシャッター速度で調節できます。

露出モードについて

このカメラには、撮影目的に合わせた露出を得るための露出モードが4つあります。

A(絞り優先)モード(P.63参照)

撮影者が希望の絞り値を決めることができます(シャッター速度はカメラが自動的に決めます)。
ポートレート撮影など、絞りの効果を生かして背景のボケ具合をコントロールしたいときなどに使います。

S(シャッター速度優先)モード(P.66参照)

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます(絞り値はカメラが自動的に決めます)。
スポーツ撮影など、シャッター速度の効果を生かして動くものを止めて表現したり、逆に流動感を表現したいときなどに使います。

M(マニュアル)モード(P.68参照)

撮影者が絞り値とシャッター速度の両方を決めます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、単体の露出計で測った値で撮影するときに使います。

P(プログラム)モード

撮影シーンに適した絞り値とシャッター速度が自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができ、スナップ写真など一般撮影に最適です。

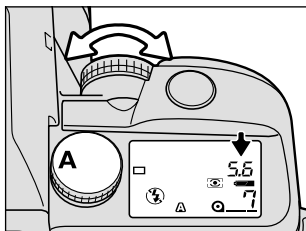
- メインスイッチ／モードダイヤルをフルオートプログラムの位置に回してもPモードになります。Pモードでは、絞り値とシャッター速度は自動的に決まるので、特に何も設定せずにそのまま撮影できます(P.35～36参照)。
- Pモードのままで、一時的に絞り値とシャッター速度の組み合わせを変える(PA/PSシフト)こともできます(P.71参照)。

A(絞り優先)モードで撮影する

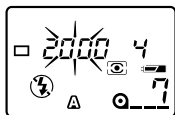
絞りの効果を得るときに使います。
撮影者が希望の絞り値を決めます。シャッター速度はカメラが自動的に決めます。

広角レンズほどピントの合って見える範囲が広くなり、望遠レンズほど狭くなります。カメラから被写体までの距離が短いほど、ピントの合って見える範囲が狭くなります。

絞りを開け
ポートレート風に撮影

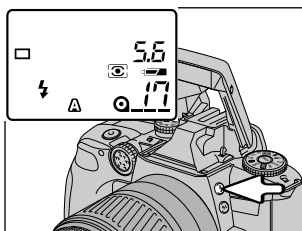
1.メインスイッチ/モードダイヤルをAの位置まで回します。

2.ダイヤルを回し、希望の絞り値を選びます。

- 設定できる絞り値は、レンズによって異なります。
- 1/2段ごとに絞り値が変わります。

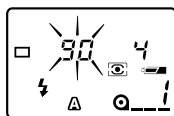
3.撮影します。

シャッター速度が2000または30"で点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバー(フィルムが感光しすぎて白っぽくなる状態)または露出アンダー(フィルムが感光せず黒っぽくなる状態)の写真になります。点滅しなくなるまで絞り値を変更してください。

■ **絞り値を変えてもファインダーでの見え方は変わりません。ボケ具合を確認したいときは、プレビューボタンを押します(P.65参照)。**

Aモードフラッシュ撮影

A(絞り優先)モードでは、フラッシュは自動発光しません。

1. ⚡(フラッシュモードボタン)**を押します。**

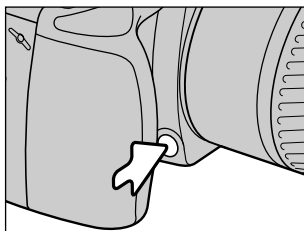
- フラッシュが上がり、ボディ表示部には ⚡ が表示されます。

2.撮影します。

シャッター速度が90で点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバー(フィルムが感光しすぎて白っぽくなる状態)の写真になります。シャッター速度が点滅しなくなるまで、絞り値を変更してください。

- ■ **シャッター速度は自動的に1/90秒以下になります。**
- ■ **絞り値を大きくする(絞りを絞り込む)と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして(開放側で)撮影することをおすすめします。**
- ■ **フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で押し下げてください。**

ボケ具合を確認する(プレビュー)

プレビューボタンを押すと、設定されている絞り値まで絞り込まれ、撮影する前にファインダー上で被写体(前景や背景)のおおよそのボケ具合が確認できます。

通常、ファインダーは絞りが一番開いた状態で像が見えています。絞りを絞るとボケ具合が変わるため、ファインダー(絞り開放状態)で見えるボケ具合と実際の撮影した写真のボケ具合は異なります。撮影前に実際の絞り値でのボケ具合を確認するのがプレビュー機能です。

1. ピントを合わせた後、プレビューボタンを押します。

● 押している間、設定されている絞り値まで絞りが絞り込まれます。

2. ファインダーでボケ具合を確認します。

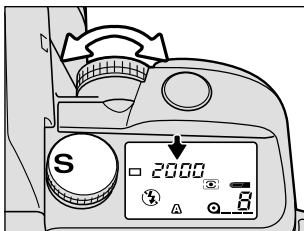
■ **絞りが絞り込まれるため、ファインダー内の画像は暗くなります。**
■ **プレビュー中は絞り値を変更できません。**
■ **シャッターボタンを半押ししてファインダー内に ● が点灯した状態でプレビューボタンを押した場合は、そのままシャッターボタンを押し込んで撮影することができます。**
■ **プレビューボタンを離すとプレビューは解除され、絞りは開放に戻ります。**
■ **フォーカスホールドボタン付きのレンズ使用時には、カスタム設定により、フォーカスホールドボタンでプレビューを行なうことができます(P.107参照)。**
■ **プレビュー中にレンズのフォーカスリングを回さないでください。**

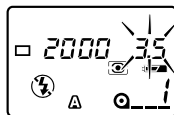
S(シャッター速度優先)モードで撮影する

シャッター速度による効果を得るときに使います。
撮影者が希望のシャッター速度を決めます。絞り値はカメラが自動的に決めます。

シャッター速度を遅くし、水の流れを表現

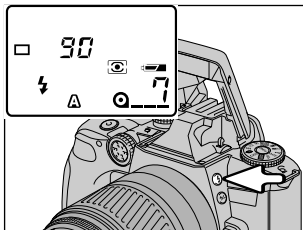
手ぶれを目立たせないシャッター速度の目安は、レンズの焦点距離分の1秒です(200mmのレンズを装着している場合は、1/250秒が目安となります)。
シャッター速度が遅くなるときは三脚の使用をおすすめします。

1.メインスイッチ/モードダイヤルをSの位置まで回します。

2.ダイヤルを回し、希望のシャッター速度を選びます。
- 設定できるシャッター速度は1/2000秒～30秒です。
- 1/2段ごとにシャッター速度が変わります。

3.撮影します。

絞り値が点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。絞り値が点滅しなくなるまで、シャッター速度を変更してください。

■ 表示部の60、125といった数字は、1/60秒、1/125秒を表わします。2"、4"など「"」の表示が出ている場合は、2秒、4秒を表わします。

Sモードフラッシュ撮影

S(シャッター速度優先)モードでは、フラッシュは自動発光しません。

1. ⚡(フラッシュモードボタン)を押します。
- フラッシュが上がり、ボディ表示部には ⚡ が表示されます。

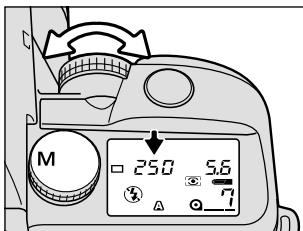
2. 撮影します。

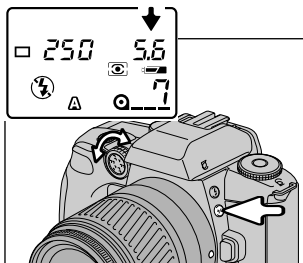
- シャッター速度を遅くして絞りが絞り込まれる（絞り値が大きくなる）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。ある程度の速さのシャッター速度で撮影することをおすすめします。(内蔵フラッシュ光の届く範囲はP.38、プログラムフラッシュ光の届く範囲はフラッシュの使用説明書をご覧ください。)

■ **1/90秒より速いシャッター速度は選べません。別売りのプログラムフラッシュ5600HS(D)、5400HS、3600HS(D)を使えば、これより速いシャッター速度を選ぶことができます(P.92参照)。**
■ **フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で押し下げてください。**

M(マニュアル)モードで撮影する

絞り値とシャッター速度の両方を、自由に選ぶことができます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、露出計を使って撮影するときなどに便利です。

1.メインスイッチ/モードダイヤルをMの位置まで回します。

2.ダイヤルを回し、希望のシャッター速度を選びます。

- 設定できるシャッター速度は1/2000秒〜30秒およびバルブ(P.79参照)です。
- 1/2段ごとにシャッター速度が変わります。

3.露出補正ボタンを押しながらダイヤルを回し、希望の絞り値を選びます。

- 設定できる絞り値は、レンズによって異なります。
- 1/2段ごとに絞り値が変わります。

- ファインダーに表示される測光インジケーターを参考に、シャッター速度と絞り値を調節することもできます。

Mモード時の測光インジケーター

ファインダーの下側に測光インジケーターがあります。カメラが測光した露出値を基準(0)に、撮影者が選んでいる絞りとシャッター速度による露出値が表示されます。

−2・1・0・1・2＋

適正露出です。

−2・1・0・1・2＋

＋1.5段露出オーバーです。
シャッター速度を速くするまたは絞りを絞ります。

−2・1・0・1・2＋

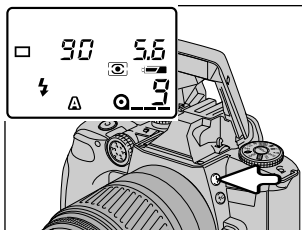
ー1.5段露出アンダーです。
シャッター速度を遅くするまたは絞りを開きます。

−2・1・0・1・2＋

＋2.0段以上露出オーバーです。
露出値の差が±2段を越えると、◀ または▶が点灯(±2.5段)・点滅(±3.0段以上)します。

■ Mモードでは、露出補正を設定していても一時的にキャンセルされます。ほかの露出モードに変更すると前回設定された露出補正値に戻ります。

Mモードフラッシュ撮影

M(マニュアル)モードでは、フラッシュは自動発光しません。

1. ⚡ **(フラッシュモードボタン)を押します。**

- フラッシュが上がり、ボディ表示部には ⚡ が表示されます。

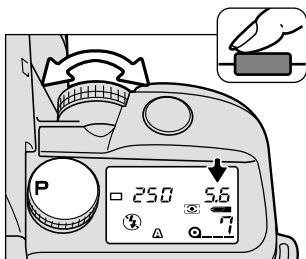
2. **撮影します。**

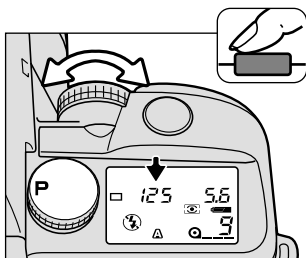
■ **1/90秒より速いシャッター速度は選べません。別売りのプログラムフラッシュ5600HS(D)、5400HS、3600HS(D)を使えば、これより速いシャッター速度を選ぶことができます(P.92参照)。**

■ **絞りを絞り込むと、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を開放側で撮影することをおすすめします。**

■ **フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で押し下げてください。**

PA/PSシフト撮影する

Pモードまたはフルオートプログラムの位置で、一時的に絞り値またはシャッター速度を変更することができます。絞り値の変更をPAシフト、シャッター速度の変更をPSシフトと呼びます。
この機能は、カスタム設定(カスタム7-2または3に設定・・P.108参照)とフラッシュ非発光状態(フラッシュが下がっているとき)のときに使用できます。

PAシフトの場合(カスタム7-2に設定)

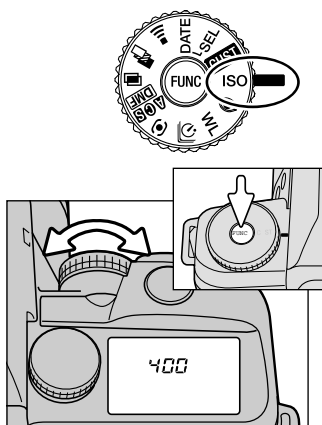
● シャッターボタンを半押ししてボディ表示部に測光値(絞り値とシャッター速度)を表示させ、ダイヤルを回して希望の絞り値を設定します。
● シャッター速度は自動的に決まります。

PSシフトの場合(カスタム7-3に設定)

● シャッターボタンを半押ししてボディ表示部に測光値(絞り値とシャッター速度)を表示させ、ダイヤルを回して希望のシャッター速度を設定します。
● 絞り値は自動的に決まります。

■ 絞り値およびシャッター速度は1/2段ごとに変わります。
■ フラッシュモードボタンを押すとフラッシュが上がり、PA/PSモードは解除されます。
■ ファンクションボタンを押すとPモードまたはフルオートプログラムに戻ります。フラッシュをONにするか、測光値が消えてから5秒経過すると、同様にPモードまたはフルオートプログラムに戻ります。

フィルム感度の設定を変更する

DXコードの付いていないフィルムは、フィルムの感度が自動的に設定できません。次の手順でフィルムの感度を設定してください。リバーサルフィルム使用時の増感撮影などで自動的に設定された感度を変更するときも同じ手順です。

増感撮影とは、指定されたフィルムの感度を2倍、4倍に変更して撮影する方法です。屋内でのスポーツ写真など、暗い場所で速いシャッター速度が必要な場合に使います。ISO100を400に変更すると4倍、ISO400を800に変更すると2倍増感となります。
増感撮影はフィルム単位で撮影します。途中から感度を変更することはできません。
現像するときは、増感撮影したことを必ずお店にお伝えください。

1. カメラにフィルムを入れます。
2. ファンクションダイヤルをISOの位置まで回します。

3. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に希望のフィルム感度を表示させます。
   - 設定可能なフィルム感度の範囲は、ISO6～6400です。
4. ファンクションボタンの指を離します。
   - フィルム感度が設定され、通常の表示に戻ります。

■ フィルム感度を変更した場合、その後も同じ感度のフィルムを続けてカメラに入れると、同様の変更が自動的に行われるように設定することもできます(P.105参照)。

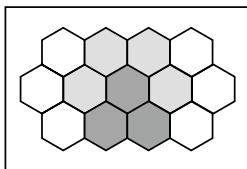
■ 各コマ単位でフィルム感度を変えると1/3段ごとの露出補正として使用できます。

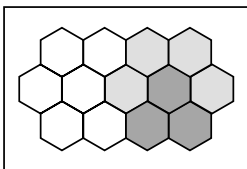
目的に合わせて露出を測る

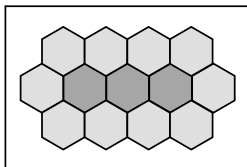
このカメラは3つの測光方式を備えています。目的に合わせて測光方法を選べます。通常は14分割ハニカムパターン測光に設定されています。

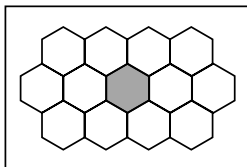
14分割ハニカムパターン測光

カメラの画面内に配置された、13個のハニカム(ハチの巣)形状の測光素子と、その周囲との合計14個の測光素子が露出を決定します。これらの素子はオートフォーカスと連動しているので、画面内のどこに被写体があっても測光できます。

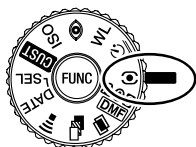
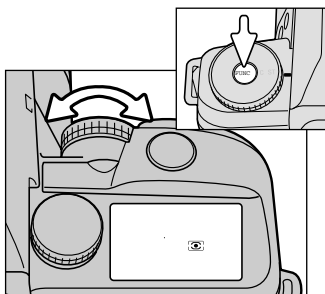
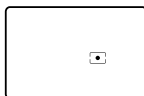
14分割ハニカムパターン
(被写体が中央にあるとき)

14分割ハニカムパターン
(被写体が右にあるとき)

応用撮影編

中央重点平均測光

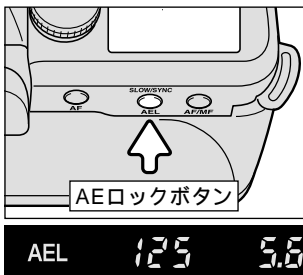
画面の中央部を重点的に、画面全体の明るさを平均的に測光します。逆光時や、被写体が画面中央にないときは、露出補正が必要になります。

スポット測光

画面中央の1個の測光素子のみで露出を決定する測光方式です。

■ カメラにDレンズを装着しているときは、マニュアルフォーカスを使用した場合でも14分割ハニカムパターン測光に近い測光が可能です。

■ Dレンズ以外のレンズを付けている時に、マニュアルフォーカスで使用した場合、自動的に中央重点平均測光に近い方式になります。
オートフォーカスに戻すと、14分割ハニカムパターン測光になります。

測光モードを選択する

1. ファンクションダイヤルを測光モード の位置まで回します。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、測光モードを選択します。

AEロック撮影（露出の固定）

AEロックボタンを押すと、その時の露出値が固定されます。測光したいものとピントを合わせたいものが異なる場合や、露出を一定に保ったまま連続撮影したい場合などに使用します。

1.測光したい部分にピントを合わせます。

2.AEロックボタン[AEL]を押します。

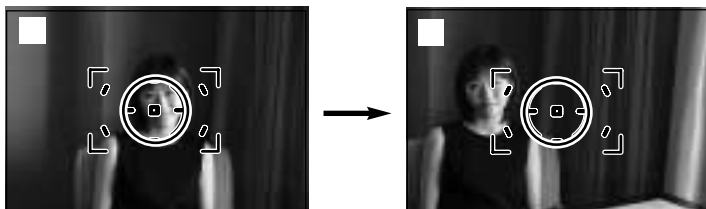
● ファインダー表示部に AEL が点灯し、露出が固定されたことをお知らせします。

3.AEロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影します。

● AEロックボタンを押したまま構図を変えることもできます。

AEロックボタンを押したときの測光インジケーター

AEロックボタンを押し露出を固定すると、ファインダー内の測光インジケーターに、固定された露出値と、構図を変えた後のスポット測光サークル内の測光値との差が表示されます。

例：　下の場面で、AEロックボタンを押しながら左の画面から右の画面に構図を変えた場合

スポット測光の場合

① AEロックボタンを押したとき

固定された露出値
(＝その時のスポット測光サークル内の測光値)

② ボタンを押したまま構図を変えた後

→スポット測光サークル内の測光値は、固定された露出値よりも1.5段アンダー

次ページに続く

AEロック撮影（露出の固定）（続き)

■ 露出値の差が3段を越えると◀ または▶ が点滅します。

■ AEロックボタンを押し続けると、同じ露出で連続して撮影できます。

■ フラッシュが発光するとき(ファインダー表示部に ϟ が点灯しているとき)は、AEロックボタンを押しながら撮影すると、スローシンクロ撮影になります。(P.91参照)

■ ファインダー内の測光モード表示([◉] [◯] [•])が点滅した場合は、被写体が明る過ぎまたは暗過ぎて、カメラの測光範囲を超えています。正しい測光は行われません。(P.120参照)

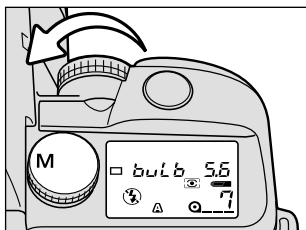
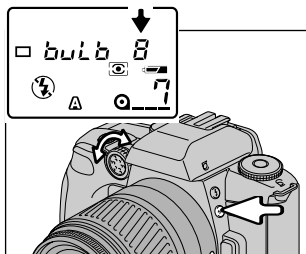
■ AEロックボタンから指を離しても露出が固定されたままになるように(押し続けなくてもいいように)、カメラの設定を変えることもできます。(P.110参照)

長時間露光で撮影する(バルブ撮影)

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります。長時間の露光が必要なときに使用します。

1.カメラを三脚などに取り付け固定します。

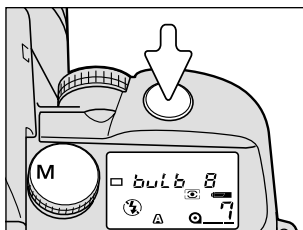
2.露出モードをMモードにします。

● メインスイッチ/モードダイヤルをMの位置に合わせます。

3.ダイヤルを左へ回し、bulbを表示させます。

4.露出補正ボタンを押しながらダイヤルを回し、希望の絞り値を選びます。

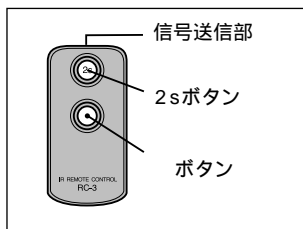
応用撮影編

次ページに続く

5.構図を決めます。

- IRリモコンRC-3を使用してバルブ撮影するときは、下記の手順にしたがってください。

6.必要な時間、シャッターボタンを押し続けます。

- 長時間露光ではカメラぶれが発生しやすくなります。別売のIRリモコンRC-3を使うとカメラぶれを防ぐことができます。

別売のIRリモコンRC-3を使ってバルブ撮影するには

6.ボディ表示部に を表示させます。(P.48参照)

7.●ボタンを押します。シャッターが開き、バルブ撮影を開始します。

- 2sボタンを押すと、2秒後にシャッターが開き、バルブ撮影を開始します。

8.もう一度●ボタンまたは2sボタンを押すと、シャッターが閉じ、バルブ撮影が終了します。

■ IRリモコンRC-3については、P.48をご覧ください。